



中野区文化芸術振興基本方針

Nakano Basic Policy
for the Promotion of Arts and Culture



中野区

令和5年(2023年)3月

目次

第1章 中野区文化芸術振興基本方針策定の趣旨	1
------------------------	---

第2章 中野区の文化・芸術を取り巻く現状と課題	3
-------------------------	---

1 社会的背景	3
---------	---

2 区の文化・芸術の特徴・現状	4
-----------------	---

3 実態調査から見える課題	7
---------------	---

4 区の現状や区民意見から見える課題	9
--------------------	---

第3章 文化・芸術振興に向けた基本的な考え方	12
------------------------	----

1 基本となる方向性	12
------------	----

2 取組の柱	14
--------	----

第4章 今後の取組の方向性 15

- I 区民主体の文化・芸術活動の活性化と交流による相互発展を促す . . . 15
- II 文化・芸術にあふれるまちをつくり、区民の生活の豊かさを高める . . 18
- III 中野の文化・芸術の魅力を発信し、中野の価値を高める 20
- IV 子どもの心の豊かさを育み、次世代へと継承する 23
- V まちの変化をとらえ、にぎわいを維持、発展する 25

第5章 文化・芸術振興にあたって 27

- 1 特色を生かすための地域資源の活用 27
- 2 再整備と連動した中野ブランドの向上 27
- 3 施策展開に関連するあらゆる組織、団体との連携 27

第1章 中野区文化芸術振興基本方針策定の趣旨

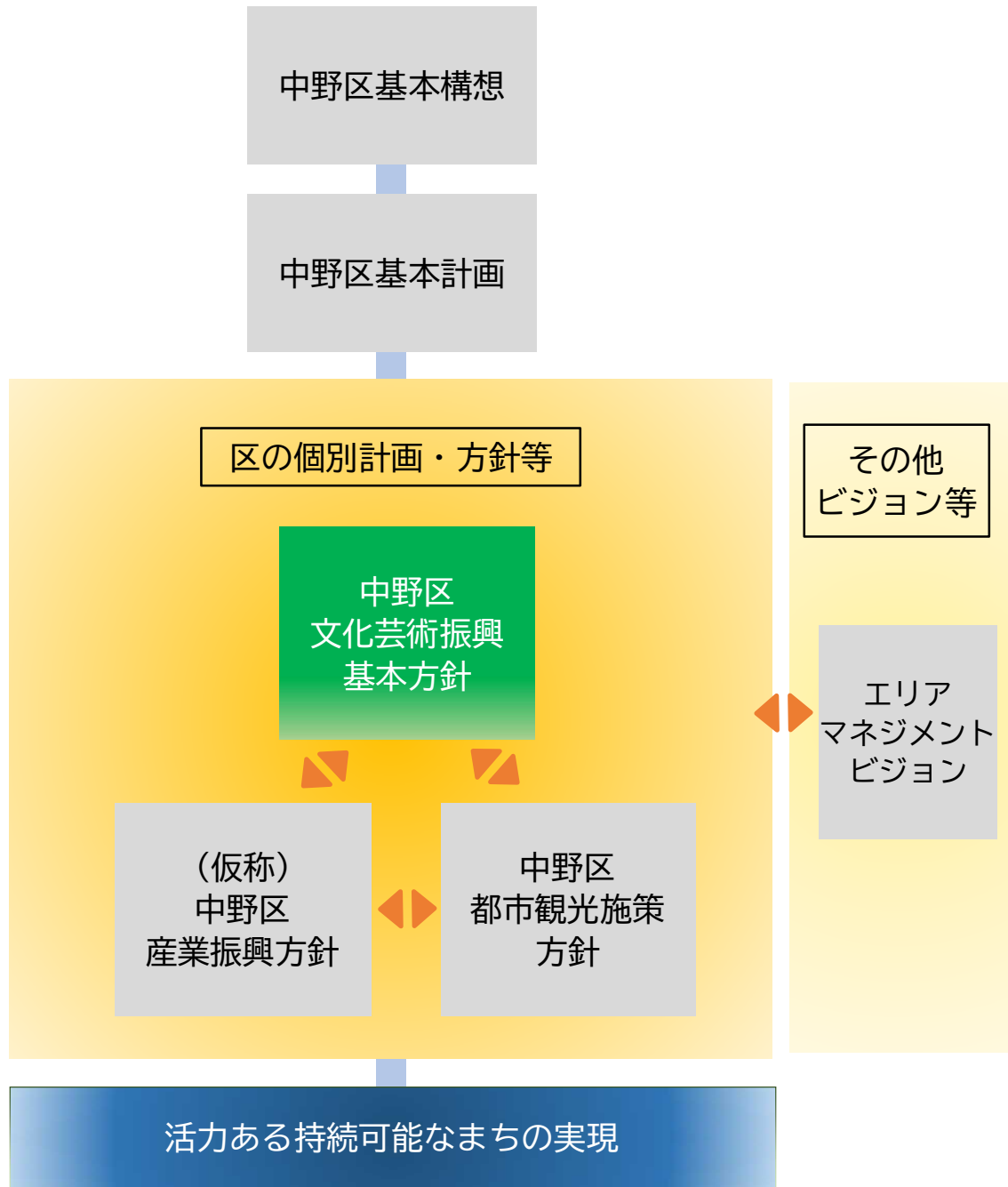
「文化芸術基本法」前文には、「文化芸術は、人々の創造性をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するもの」と定められています。

区は、2021年3月に中野区基本構想（以下、基本構想）を改定し、10年後に目指すまちの将来像を「つながる はじまる なかの」と掲げ、まちの姿を「(1) 人と人がつながり、新たな活力が生み出されるまち」のなかで、「まち全体を舞台に、中野ならではの伝統・文化や豊かな発想から生まれる遊び心ある活動が広がり、誰もが身近に親しみ、表現できる環境が整うことで、多くの人々が訪れ、にぎわいにあふれています。」と描き、文化・芸術をまち全体に展開していく方向性を示しています。

また、2021年9月に策定した中野区基本計画（以下、基本計画）では、基本構想で示したまちの姿を実現するため、施策の方向性と主な取組についてまとめるとともに、特に重要なテーマについて、重点プロジェクトと位置づけ施策を体系化しています。そして、文化・芸術については、重点プロジェクトのひとつとして活力ある持続可能なまちの実現を設定し、地域経済の回復とまちのブランディングによる産業の活性化を進めていくなかで、文化・芸術に親しめる環境づくりや文化・芸術事業の誘導、発信拠点の形成などを関連させながら、今後のまちづくりを進めていくこととしています。

本方針は、関連所管が策定する方針や計画との連携も踏まえつつ、基本構想で示したまちの姿や基本計画における基本的施策を推進し、本区の文化・芸術振興につながる取組の方向性を明らかにすることを目的として策定します。

基本構想・計画・方針の相関図



第2章 中野区の文化・芸術を取り巻く現状と課題

1 社会的背景

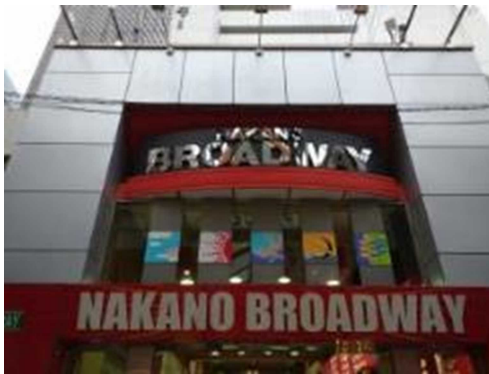
- (1) 少子高齢化、グローバル化の進展
- (2) 情報通信技術の急速な発展と普及による多様で広範な文化・芸術活動の展開（SNS、動画配信など）
- (3) 持続可能でよりよい社会の実現を目指す国際目標である SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた国や企業、自治体等のすべての主体による取組の推進
- (4) 国による文化・芸術に関する法整備、戦略、計画の整備（※）
- (5) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえた新たな生活様式への対応、社会経済活動の再開、活性化促進の必要性

※観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等の関連分野と連携しつつ、文化・芸術により生み出される様々な価値を文化・芸術の継承、発展及び創造に活用するため、「文化芸術基本法」が2017年6月に成立しました。

※その他、国は、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進を目的とした「文化財保護法」、文化・芸術産業の経済規模の拡大に向けた取組の推進、文化の着実な継承と発展をめざした「文化経済戦略」、文化・芸術の社会包摂機能を生かした心豊かで多様性のある社会の実現をめざした「文化芸術推進基本計画」を策定しています。

2 区の文化・芸術の特徴・現状

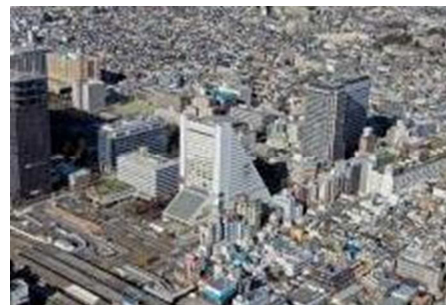
(1) 学問、文学、伝統芸術、クラシック音楽などのメインカルチャーと対比し、主にマンガ、アニメ、テレビゲーム、インターネット、お笑いやそこから派生するプラモデル、フィギュアなど、若者に支持される文化は、サブカルチャーと表現されています。中野区は、サブカルチャーの聖地といわれる「中野ブロードウェイ」、アニメ制作会社の集積、小劇場や個性的な映画



中野ブロードウェイ

館、劇団の存在、「なかの芸能小劇場」における若手芸人によるお笑いライブの活発な活動など、アニメ・サブカルチャーの地として高い知名度をもち、魅力的な地域資源が多く存在しています。

(2) これまで多くの著名アーティストがコンサートを開催してきた区の代表的なコンサートホールであり、日本のポピュラー音楽の発信地として、全国的な注目を受けながら歴史を刻み続けてきた「中野サンプラザ」は、今後、中野駅新北口駅前エリア再整備のなかで、新たな施設として生まれ変わる予定です。同施設は、ホール以外にも会議場、宴会場として多くの区民や企業などの会合、交流の場として利用され、特徴的な施設の外観は、多くの人々の記憶に刻まれています。



中野サンプラザ

(3) 区内には、有形・無形文化財、国の名勝である中野区立哲学堂公園などの記念物、江古田の獅子舞、鷺宮囃子などの無形民俗文化財、東京手描友禅



梅若会の能

や和人形などの伝統工芸、梅若桜雪氏（名誉区民、人間国宝）に代表される能楽師が演じる能など、伝統文化が存在しています。

(4) 区民活動センターや高齢者会館では、地域まつりにおける展示や発表など、地域ごとに区民主体の文化・芸術活動が行われているほか、区の文化施設である「もみじ山文化センター（なかのZERO）」や「なかの芸能小劇場」、「野方区民ホール」などといった拠点施設においても、文化・芸術に関連した発表や交流などの活動や事業が行われています。



もみじ山文化センター（なかのZERO）

(5) 中野通り桜まつり、チャランケ祭や中野チャンプルーフェスタ、都立家政の阿波踊りなど、地域の商店街や町会・自治会などによる地域に根付いた特色ある活動が活発に行われています。

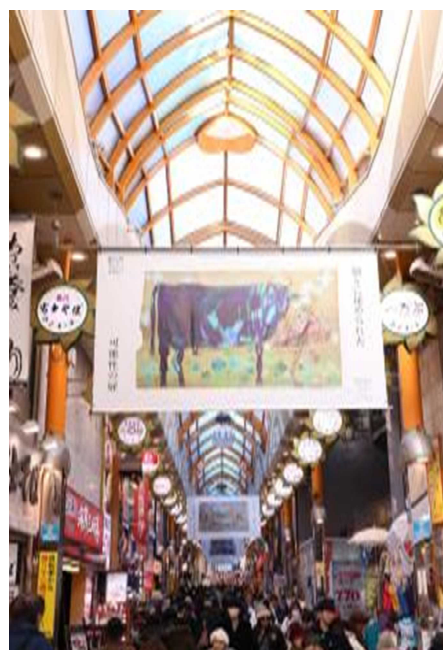


かせい阿波踊り



チャンプルーフェスタ

(6) 障害の有無を超え、才能豊かな創造と多様な価値観に出会うことができるアール・ブリュットと商店街とが結びつき、作品を展示する例や、アーティストや区民によるまちなかの壁画制作活動（ミューラルプロジェクト）、商店街のアーケードにおける小・中学生の絵画作品の展示など、地域の様々な人たちを巻き込んだ多様性のある文化・芸術活動が行われています。



アール・ブリュット

3 実態調査から見える課題

※調査は、「中野区文化芸術活動に関する実態調査」(2020年3月)より

(1) 文化・芸術に触れ、活動する機会の充実に関する課題

① 区民の需要が高い一方、満足度が低い

「文化・芸術に触れたり、活動することの重要性」について、「大切だと思う」との回答は92.5%である一方、「中野区の文化的環境に満足している」については、「満足している」16.1%と低い水準となっています。

② 文化・芸術活動を行う機会が少ない

「最近1年間に行った文化・芸術に関わる活動」について、「特に行ったことはない」は60.8%で、その理由については、「行う機会を持てなかったから」(44.0%)が最も多くなっており、区民にとって文化・芸術活動を行う機会が十分ではないことがわかります。

③ 区内の施設利用率が低い

「文化・芸術鑑賞に利用する施設」について、「区外民間施設」が49.8%で最も高く、次いで、「区外公共施設」(37.5%)、「もみじ山文化センター(なかのZERO)」(32.8%)である一方、「区内民間施設」については8.1%と低く、区外の施設と比較し利用率に大きな差が生じています。

(2) 情報発信力の強化に関する課題

①通信技術を生かした情報発信力が弱い

「文化活動に関する情報の入手方法」について、「公式ウェブサイト」は23.8%であり、トップの「街中の広告・ポスター等」(51.1%)に比べ低く、インターネット等を通じた情報発信力が弱いことがわかります。

②伝統文化の発信力不足

「伝統的な祭りや歴史的な建物などの存在が、その地域の人々にとって地域への愛着や誇りになる」について、「思う」が85.6%と高い水準である一方、「最近1年間に直接鑑賞した文化芸術」では、「歴史的建物や遺跡などの文化財」は、41.6%で高いものの、「能楽や歌舞伎などの伝統芸能」は12.0%と低い水準となっており、伝統文化の魅力に触れる機会が少ないことが推測されます。



哲学堂公園・六賢台

4 区の現状や区民意見から見える課題

(1) 文化・芸術の他領域との連携及び文化・芸術団体同士の協働に関する課題

①他領域との交流、結びつきが弱い

中野区は、アニメ・サブカルチャーの地として広く知られているとともに、地域の課題解決や活性化、つながりの一翼を担っている町会・自治会や商店会などがあります。しかしながら、文化・芸術活動とこれらの地域団体の結びつきが弱く具体的事例が乏しい状況です。

②文化・芸術団体同士の協働が少ない

区内の小劇場や劇団、多く在住することが想定される若手お笑い芸人や演劇関係者と協働した活動事例、交流事例が少ないことなど、区の地域特性が文化・芸術の創造性と十分に結びついていません。

(2) 文化・芸術活動における場所の制限に関する課題

音楽やダンス、演劇など、大きな音や振動が生じる場合がある文化・芸術活動は、音漏れ等により、通常の貸し室利用では活動が制限されます。現状では、区有施設全般において防音などが整備された場所は少なく、一部の文化・芸術団体は、活動できる場所が限られている状況となっています。

(3) 文化・芸術団体の活性化に関する課題

区民の文化・芸術団体の活動の活性化には、普段の活動とともに区民が文化・芸術団体の活動に触れ、文化・芸術活動に参加するきっかけとなる発表の機会が重要ですが、現状においては、区の文化・芸術団体の発表の機会が経常化しており、参加する団体や区民が、限定的となっています。また、各団体が主催する発表についても十分な発信ができておらず、区民全体に情報が届いていません。

(4) 若い世代に対する機会の充実に関する課題

子どもが、文化・芸術に等しく触れ、体験する機会が少ないため、文化・芸術を自由に感じ、心の豊かさを育むことができる環境整備が必要です。また、発表の場についても若い世代が、自身の文化・芸術活動を発表する機会が十分にあるとは言えない状況です。

(5) 中野駅周辺の整備期間中のにぎわい、魅力づくりに関する課題

「中野サンプラザ」は、2028年度に新たなシンボル拠点として生まれ変わるために2024年から解体される予定となっています。これまで文化・芸術の一時代を担ってきた区の代表的なランドマークが解体され、新たなシンボルの竣工までの期間においては、まちのにぎわい低下を防ぎ、新たな発展へとつなげていくための取組が求められています。

課題のまとめ

1 社会的背景に関する課題

- (1) 子どもの育成、高齢者や外国人の生きがいにつながる展開
- (2) 情報通信技術の活用
- (3) SDGs との関連を意識した取組
- (4) 国や都の施策との連携
- (5) 感染症の拡大への対策を踏まえた新たな生活様式への対応

2 区の文化・芸術の特徴・現状に関する課題

- (1) 魅力的な地域資源の活用
- (2) 「中野サンプラザ」をレガシーとして活用
- (3) 伝統文化の魅力発信と活用・継承
- (4) 区民主体の文化・芸術活動の発展
- (5) 特色ある地域の活動の活性化
- (6) 多様な文化・芸術活動の発信・支援

3 実態調査から見える課題

- (1) 文化・芸術に触れ、活動する機会の充実
- (2) 情報発信力の強化

4 区の現状や区民意見から見える課題

- (1) 区内関連団体との協働
- (2) 文化・芸術活動における場所の整備
- (3) 文化・芸術団体の活性化につながる発表機会の創出と支援
- (4) 若い世代に対する機会の充実
- (5) 中野駅周辺の整備期間中におけるにぎわいの維持

第3章 文化・芸術振興に向けた基本的な考え方

1 基本となる方向性

目指す将来像

つながり、ひろがる
創造性あふれるまち なかの

区民一人ひとりが身近に文化・芸術に親しみ、表現できる環境のなかで、創造性や心のゆとり、楽しみが生まれ、心豊かな暮らしが実現しています。

また、すべての区民が、中野の特徴である多様性や文化・芸術の独自性に誇りを持ち、文化・芸術を通じてつながりを広げることで、まちのいたるところに様々な新しい活動が生まれ、その活動や中野の文化が広く発信されることで、まち全体がにぎわいと創造性にあふれています。

(1) 多様な「創造性」があふれるまち【環境を整備し、機会を創出する】

自ら文化・芸術活動を行う人が活躍できる環境を充実させるとともに、交流機会を生み出すこと、また、すべての区民が気軽に文化・芸術に親しみ、その魅力に継続的に触れる機会を創出することで、区民一人ひとりの個々の感性や創造性を育み、生活を豊かなものにしていきます。

(2) つながり広がる「創造性」【魅力を伝え、つながりを広げる】

文化・芸術の魅力が情報発信の強化により、まちの至るところに浸透し、人々の間につながりが生まれるとともに、文化・芸術のもつ多様な価値や創造性が、観光や産業などと多方面において結びつくことで、新たな価値の創造につなげ、中野の地域資源を一層磨き上げていきます。

(3) 未来につながる「創造性」【巻き込み、次世代へとつなぐ】

まちの変化と連動して、まちのにぎわいをつくり出すことで、文化・芸術の継承、更なる発展、創造を生み出します。また、中野のまちのあらゆる主体を「つながり、ひろがる 創造性あふれるまち なかの」に巻き込んでいくことで、まちの魅力をさらに高め、未来を担う子どもたちへと引き継いでいきます。



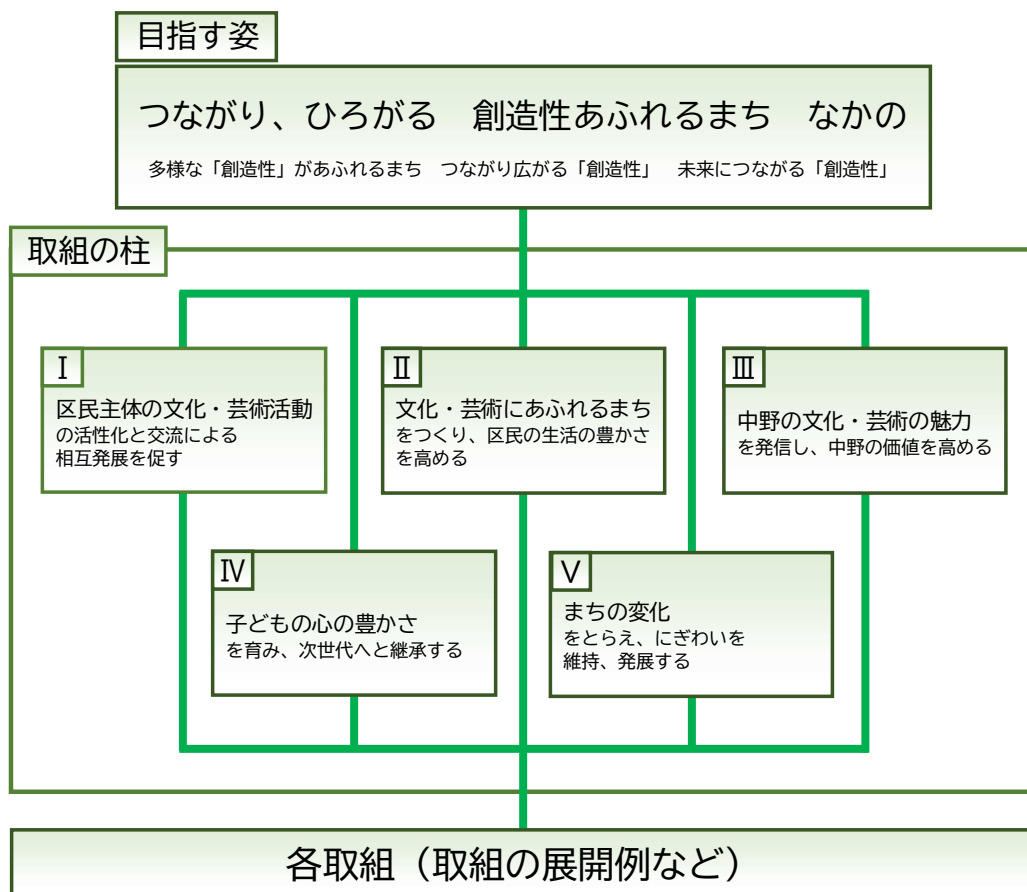
江古田の獅子舞

2 取組の柱

「つながり、ひろがる 創造性あふれるまち なかの」の実現をめざし、次の5つの柱で取組を推進します。

- I 区民主体の文化・芸術活動の活性化と交流による相互発展を促す
- II 文化・芸術にあふれるまちをつくり、区民の生活の豊かさを高める
- III 中野の文化・芸術の魅力を発信し、中野の価値を高める
- IV 子どもの心の豊かさを育み、次世代へと継承する
- V まちの変化をとらえ、にぎわいを維持、発展する

基本方針の構成



第4章 今後の取組の方向性

I 区民主体の文化・芸術活動の活性化と交流による相互発展を促す

区民が主役の文化・芸術活動の活性化と文化・芸術を通じた交流を進めることで、中野からはじまる新しい文化・芸術が誕生する契機や多様な文化的背景を持つ人々の相互理解が深まる機会を創出するなど、あらゆる文化・芸術の相互発展を促します。

●文化・芸術活動を行う団体等への支援充実

まちの魅力向上に寄与する多様な文化・芸術活動とその担い手である区民や団体等へ支援を行うことで、区民が主役の文化・芸術活動の活性化を図ります。

取組の展開例

- ・区民が主役の文化・芸術団体のコンペティション事業等の実施（指定管理者事業）
- ・若い世代が参加し、表現できる機会の充実
- ・文化・芸術団体に対する助成の推進
- ・文化・芸術活動の発表の場を広げるための規制緩和の検討
- ・（仮称）文化芸術振興基金の検討

●区内の文化・芸術施設をはじめとした施設全般の利用促進

文化・芸術施設をはじめとして、区民活動センターや高齢者会館などの施設全般の機能性及び利便性の向上と区内の文化施設情報の発信強化などによる区民の利用促進を図ります。

取組の展開例

- ・区有文化施設の改修による機能性及び利便性の向上
- ・施設ごとの特性を踏まえた運営の改善
- ・多様な文化・芸術活動ができるよう、利用者や団体のニーズを捉えた区有施設環境の整備
- ・区内にある施設全般の情報を集約した情報サイトの構築
- ・ユーザビリティを重視したわかりやすい予約システムの再構築

●障害者や外国人の文化・芸術活動支援

文化・芸術の持つ社会的包摂の機能に着目し、他者と共感し合う心を育み、区民の障害や多文化に対する理解を促進します。

取組の展開例

- ・障害者や外国人の文化・芸術活動の交流や発表機会の充実
- ・「アトリエ pangaea (ぱんげあ)」の展示会をはじめとしたアール・ブリュットの推進（指定管理者事業）

●多様な主体のマッチングによる交流機会の促進

文化・芸術の創造性や表現性をきっかけとした区民の相互交流を図るため、多様な主体同士のマッチングを促進します。

取組の展開例

- ・もみじ山文化センター（なかの ZERO）旧レストランスペース等を活用し、ワークショップなどを通じた区民や団体の交流機会の創出（指定管理者事業）
- ・地域が求める文化・芸術事業と関連団体やアーティストとのマッチング
- ・文化・芸術事業を通じた世代間交流の推進

●区内に住み、地域で活躍するためのアーティストへの支援

文化・芸術活動を志すアーティストが地域で活躍できるよう、地域に根ざした活動を支援します。

取組の展開例

- ・地域における発表機会の創出（指定管理者事業）
- ・商店街等における文化・芸術事業とアーティストとのマッチング支援



なかの ZERO での催し（民謡民舞大会）

Ⅱ 文化・芸術にあふれるまちをつくり、区民の生活の豊かさを高める

誰もが時間や場所にとらわれず、身近に文化・芸術に触れ、楽しみ、感動することができるよう、まちのいたるところに文化・芸術があふれる環境づくりを進め、区民の生活を心豊かで潤いのあるものにしていきます。

●パブリックアートの推進、観光事業との連携

中野の強み、資源を捉えた情報発信を強化することで、まちのいたるところに文化・芸術があふれる環境づくりを進めていきます。

取組の展開例

- ・プロのアーティスト、市民活動など、様々なケースを想定した壁画プロジェクト（ミューラルプロジェクト）の推進
- ・商店街施設等のデザインや空き家利用も含めたパブリックアートの推進
- ・（仮称）中野文化芸術振興大使の検討

●文化・芸術と区民をつなぐ派遣事業の推進

乳幼児から高齢者まで障害の有無にかかわらず、より多くの区民が身近に文化・芸術に触れられるよう、文化・芸術団体や人材などを地域へ派遣する事業を推進します。

取組の展開例

- ・区民活動センターなど区有施設における派遣事業の展開
- ・新区役所など区有施設におけるアール・ブリュットの展開

●デジタル技術、インターネットの活用の充実

インターネットのコンテンツの活用などにより、いつでも、どこでも文化・芸術を楽しめる機会を創出します。

取組の展開例

- ・デジタル化した区内アート作品や音楽に触れる機会の検討

●消費活動に着目した商店街との連携

コミュニティ拠点である商店街とのコラボレーションによる発信力強化など、区民の暮らしや消費活動と組み合わせた文化・芸術活動の展開を支援します。

取組の展開例

- ・お笑い芸人とのコラボレーションや若者を対象としたイベントなどによる消費喚起

Ⅲ 中野の文化・芸術の魅力を発信し、中野の価値を高める

中野の独創性と魅力にあふれた文化・芸術を広く発信し、区内外の人々に中野の文化・芸術の魅力を広め、新たなつながりが生まれる環境を整備することで、中野の価値や区民の誇りを高めていきます。

●地域資源の発掘と発信による新たな価値の創造

アニメやサブカルチャー、お笑いなどに代表されるエンターテインメント文化など、多様性にあふれた中野の地域資源の発掘、周知を行うとともに、産業活性や他領域の活動と結びつけを行うなど、文化・芸術を基軸とした相乗効果を生み出し、新たな付加価値を創造します。

取組の展開例

- ・地域資源発掘・情報発信による事業
- ・区内団体・企業等と連携したアニメ・サブカルチャーなどのコンテンツを活用したイベント等の創出
- ・インフルエンサーによる情報発信
- ・中野区認定観光資源の見直し

● 伝統文化の保存と魅力の発信

区内に数多く存在する文化財や伝統文化の魅力を多くの区民に伝えるとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一時的に停滞した活動が再び活性化し、継承や発展につながるよう、発信の強化と活用を促進します。

取組の展開例

- ・ 旧野方配水塔、旧豊多摩監獄表門、江古田の獅子舞、鷺宮囃子、能など、有形・無形文化財や伝統文化の魅力の発信と活用
- ・ 歴史民俗資料館を起点とした伝統文化の体験事業や展示、区内の史跡・文化財を巡る散策事業など、文化の魅力を直接的に感じてもらう事業の展開
- ・ 文化財のデジタルアーカイブ化の検討や映像配信、SNS の活用などによる発信の充実
- ・ 文化施設における発表事業や地域における発表機会の創出
- ・ 区民活動センターにおける文化財展示などの地域展開の推進
- ・ 名勝哲学堂公園保存活用計画に基づいた公園の再整備
- ・ 棟方志功等、中野区ゆかりの人物の功績や魅力の発信と活用



鷺宮囃子

●広域連携による文化・芸術発信の強化

中野らしい多様な文化を区内外へ発信し、中野のブランド力とシビックプライドの向上につなげます。また、近隣区との広域連携を図ることにより、事業の相乗効果を生み出します。

取組の展開例

- ・ アニメ等、地域ブランディング事業の推進
- ・ インターネットや SNS 等を活用した情報発信
- ・ 近隣区との連携関係の構築
- ・ 文化・芸術作品のふるさと納税返礼品への応用の検討



中野にぎわいフェスタ（打越太鼓）



東北復興大祭典

IV 子どもの心の豊かさを育み、次世代へと継承する

未来を担う子どもたちが、中野の多様な文化・芸術に触れる機会を増やすことで、子どもの豊かな心と感性を育むとともに、伝統的な文化・芸術をはじめとした良質な文化・芸術を次世代へ継承する機会をつくり、文化・芸術の持続的な発展につなげます。

●文化・芸術に触れる、始める、発表する機会の充実

学校等と連携しながら、子どもが良質な文化・芸術に親しめる機会を創出するとともに、文化・芸術活動を始めるきっかけづくりや発表機会の充実を図ります。また、乳幼児を含む子どもが、自由な創造性を自ら育てることができる環境を整備します。

取組の展開例

- ・小・中学校における文化・芸術活動の鑑賞機会、体験活動の充実
- ・子どもを対象とした文化施設事業の充実（指定管理者事業）



なかのZERO 大ホール

● 伝統文化と文化財に触れる機会の充実による文化・芸術の発展と継承

区民が伝統文化に触れ、その魅力を感じることができる機会を創出します。また、区内に点在する文化財を活用し、区民の文化財への興味を高め、郷土愛を生み出します。特に、若い世代の伝統文化への理解を深めることにより、伝統文化及び文化財の活動を地域に根付かせ、将来の発展と次世代への継承を支援します。

取組の展開例

- ・ 歴史民俗資料館や文化財保有施設、区内社寺、伝統文化保存会等と協働した若い世代を対象としたイベントや体験会等の実施
- ・ 子どもを対象とした文化施設事業の充実（指定管理者事業）



哲学堂公園・四聖堂



こども日本舞踊講座（なかのZERO）

V まちの変化をとらえ、にぎわいを維持、発展する

中野駅周辺まちづくりにおけるエリアマネジメントとの連動や最新技術を生かしたコンテンツの活用など、ハード、ソフトの両面から整備を進めることで、中野駅新北口駅前エリア再整備期間中も中野駅周辺のにぎわいや魅力を維持し、将来的には文化集積地へと発展させます。

●中野駅周辺まちづくりと連動した新たな発信拠点の創造

中野駅新北口駅前エリアの再整備とエリアマネジメントを連動させるとともに周辺商店街等とも連携し、文化施設にとらわれない発表の場を創造することで、身近に文化・芸術に触れる機会を増やし、文化・芸術を応援する風土をつくり出します。

取組の展開例

- ・中野駅新北口駅前エリアに整備するシンボルタワーや多目的ホールにおける新たな文化・芸術の発信
- ・まちづくりで整備される公共空地を活用した文化・芸術活動の誘導
- ・文化・芸術活動をキーワードとしたエリアマネジメントの推進支援

●まちの変化を着実に捉え、にぎわいを持続するための取組の推進

中野区役所及び「中野サンプラザ」は、竣工から半世紀を経て更新の時期を迎えており、中野駅周辺では複数の大規模な再整備が行われています。このような変革期において、文化・芸術、産業、観光に関して面的な連携を図ることで、まち全体の更なる活性化につなげます。

取組の展開例

- ・中野駅新北口駅前エリア拠点施設整備事業施行者との協力体制の構築
- ・「中野サンプラザ」の3次元データ化

●区内体制強化と産学公金の連携による推進体制の強化

文化・芸術、産業、シティプロモーション、観光を総合的一体的にとらえ、持続的なまちの活性化を目指すため、区の体制強化と産学公金の連携による推進体制を整えます。

取組の展開例

- ・区職員の育成を含めた体制強化と広範なステークホルダーとの連携の検討

第5章 文化・芸術振興にあたって

本方針で示した方向性を具体化していくためには、区の特徴となる資源の活用、中野駅周辺再整備との連動とともに様々な組織、団体と連携しながら進めていく必要があります。

区は、以下の点に留意しつつ、各施策の効果を最大限に引き出し、実施していきます。

1 特色を生かすための地域資源の活用

中野が持っている特徴を踏まえて文化・芸術の振興を図っていくために、地域資源と中野の強みを整理分析し、幅広い視点で活用を検討していきます。

2 再整備と連動した中野ブランドの向上

中野駅周辺エリアを核として、文化・芸術等によるソフトのまちづくりと再整備に伴うハードのまちづくりを連動したシティプロモーションを進めることで、中野ブランドの向上につなげていきます。

3 施策展開に関連するあらゆる組織、団体との連携

産業、観光、まちづくり、シティプロモーション、福祉、教育などの関連所管や区民、文化・芸術団体等及び文化施設指定管理者、区外周辺地域を含めた広域連携も視野に施策展開に関連するあらゆる連携を進めていきます。

中野区文化芸術振興基本方針

4中区区第1964号

令和5年（2023年）3月

編集・発行 中野区区民部区民文化国際課

〒164-8501 東京都中野区中野四丁目8番1号

電話 03-3389-1111（代表）

電子メール bunkakokusai@city.tokyo-nakano.lg.jp

中野区ホームページ <https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/>

